

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(IHI 相生事業所)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2019年8月18日~8月31日の期間で、本年度2年目となる、日本国内における「インバウンドカップリング・インターンシップ」を実施しました。企業実習受け入れ先はIHI相生事業所で、海外連携大学はインドネシア大学でした。4名の本学学生(工学系3名、文系1名)、4名のインドネシア大学学生(工学系2名、文系2名)が大阪大学で合流し、8名が合同で活動に参加しました。最初の2日間は当研究所にて事前研修を行い、日系企業理念、CSR、5S、QC活動、コミュニケーション、接合基礎などの講義、及び学生の発表、そしてチームワークが行われました。その後兵庫県相生市に移動し、5日間の行程でIHI相生事業所にて実習を行いました。学生は2週間を通して、企業から提供頂いた「グローバル人材育成における課題と対策」のテーマに取り組みました。企業では、会社紹介、人事活動、品質管理・保証、工場見学、設計(ボイラーユニット)、溶接実習他、幅広い視点から企業活動の全体を学びました。これらの活動及び企業の方々とのインタビューを通し、学生はグローバル人材に必要な要素、能

力等を連日討議し、意見を戦わせました。

更に、関西電力相生発電所を訪問し、IHI相生事業所で製造されるボイラーの活用を間近で見ることで社会に大きなインパクトを与える企業活動への理解を深めました。

最終報告会には、IHI相生事業所の永吉工場長、松浦課長、熊谷課長、インドネシア大学教育担当 Dr. Harinaldi 他当研究所西川教授以下教員や学生が参加しました。

CIS参加学生は2チームがそれぞれ2週間を通して取り組んだ「グローバル人材育成に関する課題と対策」に対する考察と提言について発表しました。課題に対し、言語、技術、コミュニケーション、対応力などの観点から分析し、対策提案を行いました。

企業の皆様からは、CISの受け入れにより企業としても刺激を受け、考察の良い機会となったとお言葉を頂戴しました。インバウンドCISはグローバルリーダーの育成活動を国内で実施するというユニークな取り組みですが、企業のご理解とご協力により充実した学びを実現しています。

